

内水ハザードマップの見直しについて

令和5年8月
上下水道局事業計画課

1. 見直しの目的

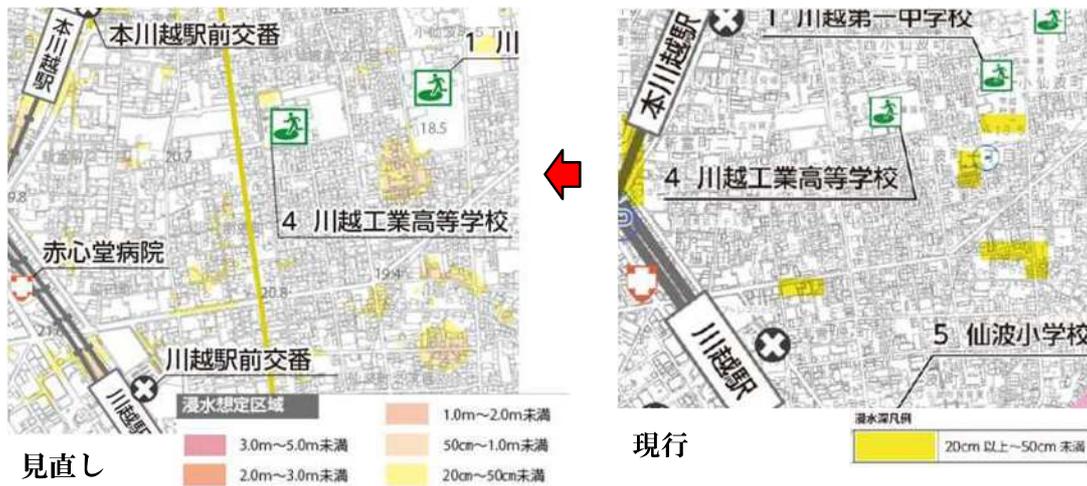
近年、全国的な集中豪雨の多発による浸水被害の拡大に伴い、**水防法が改正され、想定最大規模降雨に対応した内水ハザードマップの策定が求められている**ことから、県内自治体に先駆けて、令和4年度に見直し作業を行いました。

2. 本市における内水ハザードマップ策定の経緯

現在、公表している内水ハザードマップは、平成15年8月に観測された市内における既往最大規模降雨による地形情報を利用したシミュレーションにより作成したもので、その後、平成29年の台風被害を踏まえた浸水実績等最新の情報を平成30年度に追加したものであります。

3. 現行との違い

	見直し点	現行
対象降雨	想定最大規模降雨 153mm/1時間 (1000年に1度程度)	既往最大降雨 72.5mm/1時間 (平成15年8月5日)
水防法	基づく	基づかない
対象範囲	市内全域	公共下水道(雨水)計画区域
浸水表示	25m以下の矩形 (場所により異なる)	50mメッシュ
策定期期	令和4年度	平成25年度
公表時期	令和5年度予定	平成26年度



4. 見直しによる効果

- ・想定最大規模降雨における浸水リスク(深さ、範囲)の可視化
- ・地形情報の細分化(25m以下の矩形)による浸水想定区域の精度向上
- ・市内全域における浸水リスクの把握が可能となり、自助・協助による防災意識の醸成につながる
- ・建設部が把握する浸水実績を最新の情報に整理・更新
- ・今年度中に、小江戸マップ掲載による情報周知が可能となる
- ・水防法に基づくため、不動産取引時の重要事項説明として義務化される

参考 内水ハザードマップ等の策定状況

市町村数 策定率	内水ハザードマップ 策定済	内水浸水想定区域図策定済 (想定最大規模降雨)
全国 R3.11末	428 / 1073	75 / 1073
R4防災白書	40%	7%
埼玉県 R3年度末 県調書	55 / 66 83%	2 / 66 (さいたま市、和光市)

(令和5年10月)水防法の適用 に向け、川越市内水ハザードマップ の見直しを行っています。

ハザードマップの変更について

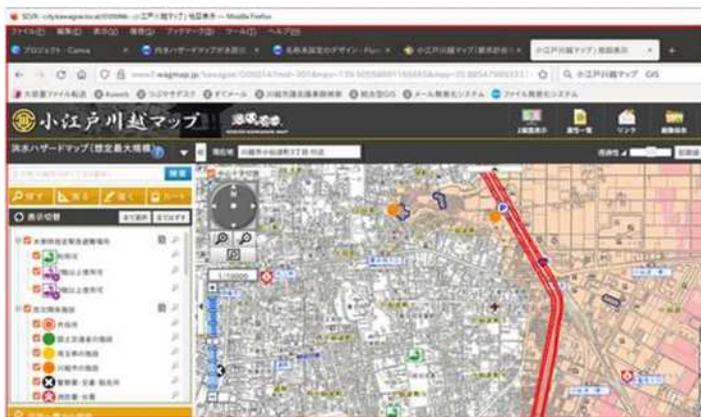
- ・現在配布している「川越市水害ハザードマップ」に記載された「内水ハザードマップ」は、水防法に基づき、想定し得る最大規模の降雨（1/1000年、153mm/h）を前提としたシミュレーション結果を反映し、変更する予定です（現在の配布版は平成15年8月5日に川越市で観測された降雨シミュレーションによるもの）

⚠️ なお、これまで配布していた内水ハザードマップは適用日以降使用することができません。

水害リスクの説明について

- ・適用日以降の重要事項説明時における水害リスクの説明は「小江戸川越マップ」からGISを用いて行うことができます。
(内水ハザードマップは適用日以降に利用可能となります。)

スマホは
こちら



※画面は洪水ハザードマップの画面です。

小江戸川越マップ

